

国

語

目 次

○ 指導計画作成の立場	313
○ 題材一覧表	315
○ 指 導 計 画	316

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

言語及び非言語（表情や身振りなどの表現）は、大きく意志の伝達、思考、自己行動調整の三つの機能を持ち、人とのかかわり合う社会生活を営む上で必要不可欠なものである。またそのような言語（以下、非言語も含む）を用いる力は、思考力や事物、事象の認識の向上と切り離せない力であり、他教科等の学習を支える基礎的な力であるといえる。ところが、一般に精神発達遅滞児は、言語の発達の遅滞や障害を持つ場合が多く、生活の中で用いる言語が限られていたり、抽象的な事柄の理解や言語を媒介とした思考が困難であったりする。それらのために人とのコミュニケーションがうまくとれず、人との関係作りでつまづいている様子が見られる。そこで、精神発達遅滞児の国語指導で、実際の生活経験と結びついた言語の獲得とコミュニケーション活動（言語を用いての表現や理解）の能力の向上を図ることが子供たちの豊かなかかわり合いを促す上で大切なことと考える。

本校の児童生徒の様子を見てみると、理解言語や表出言語がほとんどない子供から、生活に必要な言語はある程度発達している子供までと、その言語発達の様相は幅広い。細かく見てみると相手の話を集中して聞くことが難しい、聞くことはできるが空間や事物・事象の認識や、表象的機能の形成が不十分で、言葉の意味理解がまだ難しい、表情や身振り、言葉での要求表現や簡単な指示理解はできても経験したことを相手に話すことは苦手であるなどの様子が見られる。また、文字の読み書きはできるが、文になるとつまづいたり、抽象的な内容の表現が困難だったりする。さらに、文法の理解や、標識や領収書といった社会生活に必要なものの意味の理解が不十分であるなどの様子も見られる。

そこで、本校では、身の周りの事物・事象に多く働き掛け、ものを認識する力を高めながら概念形成を十分に促し、実際の生活経験と密接に結び付いた言語の獲得を図ることで日常生活に必要な言語能力を養い、伸ばし、更には社会生活に必要な言語能力を高めることを目標として国語科の指導を行う。

指導に当たっては、子供の言語発達の実態に応じて指導内容の重点を、「聞くこと・話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の三つの領域の中に置き、段階的に指導内容を設定する。また、その内容には子供の日常生活と関連の深い活動やものを多く取り入れ、生活の中でも国語科で身に付けたことが生かされるようにする。さらに、他の領域・教科を合わせた指導などを通して、事物・事象を五感によってとらえたり、見たもの、感じたことを誰かに伝えたい、分かち合いたいという欲求を育んだり、それを支える人間関係を深めたりして、子供たちの言語発達の基礎となる力を高めていきたい。

(2) 目 標

- 聞くこと、話すことに慣れ、読むこと、書くことに関心を持つことを通して、日常生活に必要な言語能力を養う。
- 簡単な話の内容を理解したり、聞き手に分かるように話をしたりするとともに、文章を呼んだり、書いたりすることを通して、日常生活に必要な言語能力を伸ばす。
- 感じたこと、考えたことを正確に話したり、いろいろな語句を用いて文章にしたりすることを通して、社会生活に必要な言語能力を高める。

(3) 指導計画作成上の留意点

- ① 指導内容は、学習指導要領解説書の具体的内容を参考にしながら、子供の実態に即したもので編成し、各題材において段階に応じて系統的に配列する。
- ② 題材においては、「聞くこと・話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の三領域のそれぞれが、有機的・総合的に展開できるようにする。
- ③ 題材の配列に当たっては、生活単元学習や他の領域・教科、季節、行事等との関連を十分に考慮する。
- ④ 題材は、子供たちの興味・関心に基づいたもの、生活と関連したもの、社会的必要度の高いものなどの観点から設定する。
- ⑤ 授業時数は、現場実習等で明らかに欠時となるものは算定しない。

2 活用上の留意点

- (1) 個人やグループの実態に応じて、指導内容を選定する。
- (2) 題材名は、子供の実態や指導内容によっては、子供たちに分かりやすいように変更する。
- (3) 言語活動はあらゆる生活の基盤となっているので、他の教科別の指導や領域・教科を合わせた指導、日常生活の場でも関連して指導の機会をとらえるようにする。特に、音声による表出の見られない子供については、教師の働き掛けや環境の整備等、指導を工夫することにより、何らかの方法で意志の伝達が可能になるようにする。
- (4) 小学部低学年では学級単位、中・高学年及び中・高等部では発達段階を考慮したグループ別で授業を行うことを基本とする。

国語科題材一覧表

国語科題材一覧表

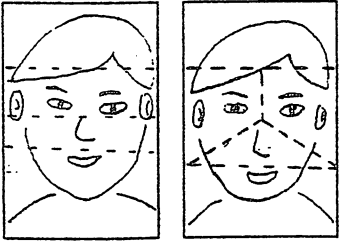
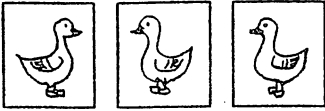

	小 学 部			中 学 部			高 等 部				
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	D	E
4	あいさつをしよう (4) (P316)			自 己 紹 介 (4) (P316)			自 己 紹 介 (2)				
5	これなあに (18) (P 3 1 8)	あ て っ こ 遊 び (18) (P 3 1 8)		標 識 や 掲 示 (6) (P 3 2 4)			標 識 や 掲 示 (4) (P 3 2 4)				
6				伝言遊び (P 3 2 5)	電 話 (P 3 2 5)	言 葉 遊 び (6) (P 3 2 6)					
7											
9	お話をきこう (14) (P 3 2 8)	童 話 (14) (P 3 2 8)		運 動 会 (P 3 2 7) (8)			運 動 会 (6) (P 3 2 7) (8)				
10	お話をしよう (12) (P 3 3 0)	お 話 作 り (12) (P 3 3 0)		童 話 ・ 物 語 (12) (P 3 2 8)			童 話 ・ 物 語 ・ 詩 (8) (P 3 2 8) (6)				
11											
12				年 賀 状 (6) (P 3 3 4)			い ろ い ろ な 書 式 (P 3 3 4) (8)				
1	絵カードで 遊ぼう (6) (P 3 3 6)	か る た (6) (P 3 3 6)		か る た (6) (P 3 3 6)			か る た (P 3 3 6) (6)				
2	劇遊びをし よう (8) (P 3 3 7)	劇 (8) (P 3 3 7)		劇 (8) (P 3 3 7)			劇 (P 3 3 7) (8)				
3	何でも書こ う (4) (P 3 3 8)	文 集 (4) (P 3 3 8)		文 集 (4) (P 3 3 8)			文 集 (P 3 3 8) (4)				


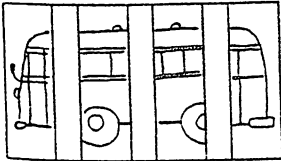
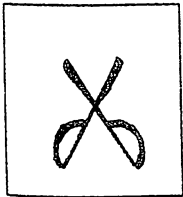
題 材	あいさつをしよう		自 己 紹 介	
学 部	小		中	高
学年・段階	A	B・C	A・B・C	A・B・C・D・E
月（時数）	4 月 （4時間）			4 月 （2時間）
目 標	○ 友達や先生とあいさつができるようにする。 ○ 自分の名前や友達の名前が分かり、簡単な自己紹介ができるようにする。 ○ 相手によく分かるように要点を押さえて自己紹介ができるようにする。			
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 あいさつをする。 (1) 先生や友達とあいさつする。 「おはよう」「こんにちは」 (2) お返事遊びをする。 (例) ・ お返事ハイ ・ あなたのお名前は ・ 握手でこんにちは ・ 君の名前		・ 指導者が一人一人名前を呼び挙手や返事をしてからあいさつをさせる。表出言語のない場合は礼だけでもよい。 ・ ゲーム活動などを取り入れて出会った人とあいさつさせ、多くの友達と接する場を作り、楽しく学習できるようにする。	・ カセットテープ	道 2-(1) 生・交 2-3, 4 3-4 国 1-8, 9 2-11 生・交 1-1 2-1 3-1
2 自分や友達の名前を知る。 (1) 写真カードを見付ける。 (2) 名前カードを見付ける。 (3) 名前カードと人物を結び付ける。 (4) 文字カードで名前を作る。 (5) 名前を読んだり書いたりする。		・ 同じグループ内の友達などから、身近な先生やクラスの友達などへ広げていく。 ・ 名前カードと人物、名前カードと写真人物と写真を結び付けるなど方法を工夫する。 ・ 実態に応じて平仮名や漢字で書かせる。	・ 写真 ・ 名前カード ・ 文字カード	国 2-11, 17 生・交 3-1, 2, 3
3 自己紹介をする。 (例) ・ わたしは〇〇です。どうぞよろしくお願いします。 <その他> ・ 学年、住所、家族、趣味、近況報告		・ 児童生徒の実態に応じて自己紹介はどんなときに、なぜ必要か話し合わせ、実際の生活と結び付けて考えさせる。 ・ 児童生徒の実態に応じて教師と一緒に名前を言ったり自己紹介カードを利用して紹介したりするようにさせる。 ・ 自己紹介文や友達、先生を紹介する文を書いたり読んだりすることを通して、聞く、話す態度にも注意させる。	・ 自己紹介カード ・ 原稿用紙	国 3-2 4-5, 7 5-7 4-17～ 20 5-18

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>○ 3つのヒントを出して当てる。</p> <p>(動物です。目が赤いです。耳が長いです。など)</p> <p>○ 答えから自分でなぞなぞを作る。</p> <p>(2) 連想ゲームをする。</p> <p>○ 想像遊びをする。</p> <p>(白い→雪, うさぎ, 牛乳バナナ→黄色い, 果物 など)</p> <p>○ ジェスチャーゲームをする。</p> <p>(ぶた, 顔を洗うなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ具体的なヒントを出し、イメージを持ちやすいようにする。 実際に友達と出題し合い、いろいろな物の特徴に気付かせるようにする。 生徒にとってイメージがわくようなものを出题していろいろな言葉が引き出せるようにする。 単語など簡単なものから取り入れて、次第に短い文などへ発展させていく。その際、助詞などの使い方に注意させるようにする。 分かりにくいときはヒントを与えるなどして答えを引き出すようにする。 絵を手掛かりにしたり、文字カードを選ばせたりしてしり取りが分かりやすいようにさせる。実態に応じて、漢字や文でのしり取りも取り上げる。 単語カードや絵カード合わせなどを組み合わせ、楽しく学習できるようにする 句読点や助詞の使い方は生徒に応じて個別的に指導する。 作った文を紹介し合い、いろいろな文ができることに気付かせるようにする。 文をつないだり、分けたりして接続詞の役割を知らせる。 拗音、長音、促音などの発音や表記を意識させ、話すことだけでなく、聞き取って書くなどの活動も取り入れる。 	<p>・絵カード</p> <p>・単語カード</p> <p>・文字カード</p> <p>・絵カード</p> <p>・短冊黒板</p>	<p>国 4-7</p> <p>5-7</p> <p>国 5-3</p> <p>4-4, 5</p> <p>国 3-9, 12</p> <p>3-13</p> <p>国 2-14</p> <p>国 5-4, 18</p> <p>4-18,</p> <p>19</p> <p>5-22,</p> <p>23</p> <p>国 4-20</p> <p>3-12</p> <p>国 3-9</p>
<p>4 言葉作りや文作りをする。</p> <p>(1) 言葉作りをする。</p> <p>○ しり取りをする。</p> <p>○ 「あ」のつく言葉を作る。</p> <p>○ 反対言葉を作る。</p> <p>(2) 文作りをする。</p> <p>○ 主語をヒントに文を作る。</p> <p>○ 述語をヒントに文を作る。</p> <p>○ 助詞に気を付けて文を作る。</p> <p>○ 接続詞に気を付けて文を作る。</p>			
<p>5 いろいろな言葉遊びをする。</p> <p>・ 早口言葉, 伝言ゲーム, クロスワード, 間違い探し, 回文 など</p>			

題 材		こ れ な あ に	あ て っ こ 遊 び		
学 部		小			
学年・段階		A		B・C	
月（時数）		5～7月（18時間）			
目 標	○ 教師のしぐさを模倣するまねっこや、いろいろな音探し、名前当てなどの活動を通して、身近なものにより関心を深め、それを身振りや音声で表現できるようにする。				
	○ 顔作りや見分け遊び、あてっこ遊びなどの活動を通して、同じものと違うものとを区別、比較し、身振りや簡単な言葉で表現できるようにする。				
目 標	○ 聞き分け遊びや、体の組み立て遊び、絵合わせゲーム、なぞなぞゲームなどの活動を通して、いくつかのなかから正しい事柄をはっきりと話すことができるようにする。				
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点		準 備	関 連 内 容
1 まねっこをする。					
(1) 教師の顔の表情をまねる。 ・ 泣いた顔、怒った顔 笑った顔、舌出しなど		・ 「手をたたきましょう」「あがりめさがりめ」などの歌を歌いながら、いろいろな表情のまねをさせる。			国 1-6,7
(2) 教師のしぐさをまねて、腕や足を動かす。 ・ 万歳、腕組み、後ろ手腕組みなど		・ 対称性の簡単な動きから、次第に非対称性の動き、体中線交差の動きなど少し複雑な動きにしていく。			国 1-4,7 生・遊 1-2
(3) 音楽に合わせて、身体各部位を動かし、いろいろなまねをする。 ・ 飛行機、カニ、うさぎ、象、ちょうちょうなど		・ 乗り物や動物などの絵カードを提示したり、音楽を流したりして活動へ関心を持たせる。 ・ 手足を伸ばしたままの動きや横歩き、高ばい、四つばい歩き、両足跳びなどの動きをさせる。		・ テープレコーダー ・ 絵カード	国 1-4,7 体 1-23, 24 音 1-6 2-8
(4) いろいろな指示に従い、身体各部位を触る。 「手を頭に置きなさい」 「ひざを2回たたきなさい」		・ 初めは、身体各部位の名前にふれず、模倣をさせる。 ・ 自分の各部位を触ったり、友達や教師に触らせたりする。			国 1-4,7 生・遊 1-2
(5) 目を閉じて、触られた身体各部位を当てる。		・ 分かりやすい部位（頭、目、口、手など）から始め、次第に細かい部位（髪、つめ、まゆなど）を触り、指さしや言葉で当てさせるようにする。			国 1-12 算 1-2

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>2 いろいろな音を探す。</p> <p>(1) 音源の方向を振り向いたり歩いて行ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな音, 小さな音 近くの音, 遠くの音 <p>(2) いろいろな方向の音源を探す。</p> <p>(3) 教師が手に持っているのと同じ楽器を鳴らす。</p> <p>(4) 音だけを聞いて, 同じ楽器を鳴らす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聞く手掛かりばかりでなく, 音源の場所に印を付けたり, 色分けしたりしておく。 音を探しだしたら, 吹かせたり, たたかせたりして, その音だったか確かめさせる。 最初は一方向から始め, 次第に方向の数を増やしていく。あるいは, 目隠しをして音源の方へ歩いて行かせる。 ふだん, よく聞いている楽器をいくつか目の前に並べ, その中から選び出して鳴らすようにさせる。 教師は楽器を隠して鳴らすようにし, 音だけでどの楽器か判断するようにさせる。 具体物では, 果物やお菓子, 乗り物, 身近な持ち物などを, また, 絵カードでは, 果物, 乗り物などのほかに, ラーメンやカレーなど好きな食べ物, 動物など, 子供の興味・関心のある物を準備する。 一音ずつはっきり発音させたり, 発音の困難な子供へは, 手をたたきながら発音させたりして, 音節への意識を持たせるようにする。 音声言語のない児童に対しては, 同じ具体物や絵カード, 文字カードをマッチングさせるなど当てさせ方を工夫する。 名前の当てっこでは, 友達や教師の顔写真を, B5版程度に拡大したものを提示し当てさせる。名前カードとのマッチングも併せて行う。 自分で顔の各部位を触ったり, 友達や教師に触らせたりして, 名称を当てさせる。更に, 興味が持てるように, ふろしきで顔を覆って, その上から触って当てさせる。 実際の各部位の名称を絵カードや文字カードと対応させながら確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目覚まし時計 オルゴール ラッパ 呼び子 シンバル 太鼓など 鈴 カスタネット シンバル マラカス 太鼓など りんご みかん バナナ チョコレート ビスケット ハンカチ かばん 傘 など 絵カード 文字カード 写真カード 名前カード ふろしき 絵カード 文字カード 	<p>国 1-6 2-4</p> <p>音 1-11 2-7</p> <p>生・遊 1-5</p> <p>国 1-6, 7 2-4</p> <p>音 1-11</p> <p>国 1-3, 9 2-2, 4</p> <p>国 1-6, 7 2-4</p> <p>国 2-4, 11, 14</p> <p>生・交 1-1, 2</p> <p>道 2-(2)</p> <p>国 1-9 2-4</p>
<p>3 名前当てをする。</p> <p>(1) 具体物を見て, 名前を言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 果物 ・ お菓子 乗り物 ・ 身近な持ち物 など <p>(2) 絵カードを見て, 名前を言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな食物 動物 <p>(3) 友達や教師の名前を当てっこする。</p>			
<p>4 顔作りをする。</p> <p>(1) 顔の各部位の名称を言う。</p> <p>○ 触って名称を言う。</p> <p>○ 絵カードや文字カードと対応させる。</p>			

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>(2) 顔の各部位の型はめをする。</p> <p>(3) 顔の各部位の絵カードを組み合わせて、顔を作る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 3 cm程度の厚さの発泡スチロールで、顔の型はめ盤を作り、目、鼻、口、耳など各部位の名称を当てさせながら、型はめをさせる。 子供の実態に応じて、絵カードは大まかに分割したり、細かく分割したりしたものを提示する。 子供本人の顔写真カードも準備するとより関心を持って取り組んでいく。作り方は、子供の顔写真をB 4版にカラーコピーで拡大し、厚紙や発泡スチロールの台紙にはり付けてから分割して、顔写真カードを作る。 各部位の顔写真カードと、その名前の文字カードを対応させる活動もさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 顔の型はめ盤 分割式の顔の絵カード 顔写真のカード 文字カード 	<p>算 1-1, 3</p> <p>国 2-4, 8 3-2</p> <p>国 2-12, 14</p> <p>国 1-18 2-4</p> <p>算 1-3 2-1</p> <p>国 1-14, 18</p> <p>国 1-9 2-4, 5, 8 3-2</p> <p>国 1-18 算 1-3 2-1</p> <p>国 1-18 算 1-3 2-1</p> <p>算 2-8</p>
<p>5 見分け遊びをする。</p> <p>(1) 具体物を見分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> おはじき 積み木 など <p>(2) 具体物に近い絵を見分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の違い 大小の違い 左右、上下の違い <p>(例)</p>  <ul style="list-style-type: none"> 部分的な違い <p>(例)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 各色のおはじきを色別に集めたり、同じ形ごとに積み木を集めたりなど具体物を操作させながら見分けさせる。 絵カードは、3～4枚1組程度にしてその中で1枚だけ少し違いのある絵にしておく。なお、子供にとって身近な果物や乗り物、動物など具体物に近い絵カードにする。 同じ物を見付けたり、違う物については、大きさ、色、方向、部分の差異などの違いに気付かせ、どこが違うか見付けさせるようにする。 絵カードでは気付くのが困難な子供に対しては、具体物も一緒に提示しながら段階的に指導する。 「同じ、違う」「大きい、小さい」「少し、たくさん」などの言葉を使った表現に慣れさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> おはじき 積み木など 絵カード 具体物 	

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>(3) 図案化された絵を見分ける。</p> <p>(例)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を図案化して、線が一本多い、模様が違う、位置が少し違うなど、ほかの絵との違いが細かにされた絵を見分けさせるようにする。 ・ 丸や三角、四角などの、抽象的な形も使って、大小、色、形の弁別をしたり、それらの用語に慣れさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カード 	<p>国 1-18</p> <p>2-4, 5, 8</p> <p>3-2</p> <p>算 1-3</p> <p>2-1</p> <p>算 1-9</p> <p>2-11</p>
<p>6 あてっこ遊びをする。</p> <p>(1) 触って当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふろしきで覆われた物 ・ 箱の中の物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手で触って当てたり、ヒントを聞いてりして当てさせるようにする。 ・ 果物や乗り物など、身近な具体物を扱い、興味・関心を持たせる。 ・ 箱は腕を入れられる穴を開けて、中の物を触ることができるようにしておく。 ・ 絵カードや文字カードでも答えが発表できるように準備しておく。 ・ 当てるのが難しい場合は、あらかじめ見せたり触らせておいたりしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風呂敷 ・ 実物 ・ おもちゃ ・ 文房具 など ・ 絵カード ・ 文字カード 	<p>算 1-1</p> <p>国 1-9</p> <p>2-4, 5,</p> <p>6, 8</p> <p>3-2</p>
<p>(2) 実物や絵カードの一部を見て当てる。</p> <p>(スリット)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物に覆いを掛けておき、一部だけを見せて当てさせる。分からないときは、見える部分を次第に広げていくようにする。 ・ 絵カードの場合は、スリットを入れた用紙を絵カードの上に重ねておき、少しずつスリットをずらしながら、絵を当てることができるようにする。 ・ 初めは、見て連想したものの名前を自由に言わせたり、絵カードを取らせたりして、その中から答えを絞らせていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カード ・ スリット 	<p>国 1-14,</p> <p>18</p> <p>国 2-4, 5,</p> <p>6, 8</p> <p>3-2</p>
<p>(3) シルエットを見て当てる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ OHPで映し出されたシルエットを見て当てさせる。 ・ 身近に使うものや、丸や三角、四角などの図形など、子供たちが知っている具体物、抽象的な形など当てさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ OHP ・ スクリーン ・ 具体物 ・ 形を切り取った型 	<p>国 2-2</p> <p>国 1-18</p> <p>2-4</p> <p>算 1-9</p>

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>7 聞き分け遊びをする。</p> <p>(1) 音まねをする。</p> <p>(2) 決めた音が鳴ったら、合図を出す。</p> <p>(3) ストップ遊びをする。</p> <p>(4) 教師の声、友達の声聞き分けて当てる。</p> <p>(5) いろいろな音当てをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物（犬、猫、牛、豚、ニワトリなど） 乗り物（消防車、自動車、汽車など） 環境音（時計、台所など） 自然音（雨、かみなり、風など） 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が鳴らした音と同じ音がする楽器を鳴らすようにさせる。衝撃音（太鼓、シンバルなど）や、連続音（ラッパ、呼び子など）を聞かせてまねさせるようにする。 あらかじめ決めておいた音が鳴った場合に、拍手をしたり、旗を上げたりして合図を出させるようにする。 2音の聞き分けを中心に行なわせる。 曲に合わせて走り、決めた音が鳴ったら止まるようにさせる。 目隠しをさせたり、カーテンの中に隠れさせたりして、教師や友達の声聞かせて誰の声か当てさせる。 テープレコーダーで音を聞かせ、写真や絵カード、文字カードを取らせたり、言葉で答えさせたりする。 音当てをさせたら、お面をかぶらせてまねをし動作化させたり、関連するリズムで身体表現をさせたりして、当てたものの特徴を確認させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓 シンバル ラッパ 呼び子など テープレコーダー テープレコーダー 写真 絵カード 文字カード 動物などのお面 プリント 鉛筆 身体各部位の絵カード 	<p>音 2-11</p> <p>生・遊 2-7</p> <p>国 1-6, 7</p> <p>2-4, 5, 6, 8</p> <p>3-2, 6</p> <p>国 1-6, 7</p> <p>2-4, 5, 6, 8</p> <p>2-12, 14</p> <p>音 2-8</p> <p>体 1-24</p> <p>2-24</p> <p>国 2-4, 5</p> <p>国 2-18</p> <p>3-15</p> <p>国 1-18</p> <p>2-4, 5</p> <p>3-2, 6</p>
<p>8 体の組み立て遊びをする。</p> <p>(1) 足りない部分の名前を言ったり、書き足したりする。</p> <p>(2) 顔や手足のカードを組み合わせて、人型を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プリントに腕や足、顔など子供が分かりやすい部分を描かせるようにして、身体各部位の名前や形などをとらえさせるようにする。 本人の身体各部位を触らせたり、名前を言わせたりして、足りない部分を補うようにさせる。 人型を書いた絵を、持ちやすいように、厚紙や発泡スチロールなどの台紙の上にはり合わせ、身体各部位の絵カードを作り操作させながら、人型を作らせる。 鼻を上下逆さにしたり、耳を左右逆にしたりする場合は、友達の顔や、正しい手本を見せて、その付き方に注意を向けさせるようにする。 		

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
(3) 人型に服を着せる。	<ul style="list-style-type: none"> 人型の上に、絵カードに切り抜いた服（上着やズボン、帽子など）を付けさせることで、身体各部位の大きさや形に気付かせる。 より分かりやすいように、立体的な人形に服を着せて、身体各部位の関係を確かめさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードの服 人形 	国 2-4 3-2, 6 生・遊 2-7 国 2-14, 15, 18, 19
(4) 身体各部位を平仮名で書く。	<ul style="list-style-type: none"> 能力に応じて、文字カードを取らせたり、なぞりをさせたりして、身体各部位と名前を結び付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字カード 鉛筆 	3-14, 15
9 絵合わせゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> 数枚の絵カードの中から、提示された絵カードと同じ絵カードを選び出すようにさせる。 絵カードが合ったら、その名称を言ったり、文字カードと対応させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カード 	国 1-14, 18
(1) 一組の絵合わせゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> 数組の絵カードを並べ、同じ絵カード同士を組み合わせるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字カード 	2-4, 5 3-2, 6 国 2-14
(2) 数組の絵合わせゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> 裏返しの絵カードの中から、一枚だけを取り出すゲームや、数組の絵カードを合わせる神経衰弱式のゲームをさせる。 		3-12, 13 算 1-6
(3) 裏返しの絵カードの絵合わせゲームをする。			生・遊 2-4
10 なぞなぞゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> 箱の中に入っている物が何であるか、ヒントを聞いて数枚の絵カードの中から選び出させるようにする。 どの子供も知っている身近な物の中から、似ている要素のある数枚の絵カードを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物 絵カード 	道 4-(1)
(例) 正解：バナナ			国 3-2, 3, 6
<ul style="list-style-type: none"> 準備する絵カード レモン、きゅうり、きりん、りんご、飛行機、バナナ 	<ul style="list-style-type: none"> 各自に絵カード分の文字カードを持たせ、その中から予想するものを一枚だけ選び出させる。 選んだ絵カードに合わせて、文字カードで名称も確認させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字カード 	3-12, 13
(1) 第1ヒントを聞いて、予想したものを選び、発表する。 第1ヒント：「食べるもの」	<ul style="list-style-type: none"> 第2ヒントで、(1)で発表したものと違うことに気付いたら、別の文字カードを取らせるようにする。 		生・遊 2-4
(2) 第2ヒントを聞いて、予想したものを選び、発表する。 第2ヒント：「黄色いもの」	<ul style="list-style-type: none"> 第3ヒントで正解が一つに絞られるようにする。 		道 4-(1)
(3) 第3ヒントを聞いて、正解を発表する。 第3ヒント：「長いもの」			

題 材		標 識 や 掲 示		
学 部		中	高	
学年・段階		A・B・C		A・B・C・D・E
月（時数）		5 月（6 時間）		4～5 月（4 時間）
目 標	○ 日常よく目にする印に関心を持ち、意味を調べたり、分類したりすることができるようにする。			
	○ 日常生活に必要な標識や掲示などの意味が分かるようにする。			
	○ 日常生活に必要な標識や掲示、説明書などを正しく読み取ることができるようにする。			
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 いろいろな印を調べる ・ 教室や廊下で見る印 ・ 屋外や校庭で見る印 ・ その他のところで見る印		・ かばん棚やくつ箱などの自分の場所にはどんなシールや印が付けてあるか観察させ、印に関心を持たせる。 ・ 生徒にとって身近なデパートやスーパーのマークについても扱い、興味・関心が持てるようにする。	・ シール ・ ラベル ・ 名札 ・ 広告紙 ・ 写真 ・ VTR	生・基 1-34 2-38 3-34 国 1-17 算 1-18
2 シールや印を集めて、仲間分けやマッチングをする。 ・ 動物や花などのシール ・ 色別、形別の積木 ・ 名札、係札などの札		・ おもちゃ、シール、名札など興味のあるものを使って、分類や整理など意味付けした分け方をさせる。	・ 積木 ・ 札	1-4 2-2 , 3
3 学校内の標識や掲示物について調べる。 ・ 校内地図、掲示板、教室の表札、非常口など		・ 場所と標識を対応させて、標識や掲示の意味を理解させる。 ・ 交通安全教室など他領域とも関連付けることでより理解が深まるようにする。	・ 学校案内 図	国 2-13 3-11 4-11 4-12
4 道路標識について調べる。 ・ 横断歩道、止まれ、徐行など		・ 特に安全に関するもの、日常生活に不可欠なものを生徒の実態に応じて取り扱うようにする。	・ ペープサート	5-10 5-13 5-15
5 いろいろな標識や掲示、看板などについて読み方や意味を調べる。		・ 実際に学校周辺を見学して標識や掲示を調べ、対応した処理や行動のとり方、意味などについて考えさせる。	・ 筆記具 ・ メモ帳	5-16 生・健 1-7 2-11
6 日常生活で使われる外来語の標識や、器具や医薬品などの簡単な説明書の意味を調べる。		・ 自分たちの生活と関連させることで、標識や掲示、看板や説明書などの必要性に気付かせ、興味・関心を持たせる。	・ 説明書	2-12 3-12 職 5-16

題 材		伝 言 遊 び	電 話			
学 部		中				
学年・段階		A		B・C		
月（時数）		6～7月（10時間）				
目 標	○ 伝言遊びを通して、簡単なことを話したり聞いたりすることができるようにする。					
	○ 電話の簡単な取り次ぎや伝言ができるようにする。					
		○ 電話を掛けることができるようにするとともに、相手に応じた話し方ができるようにする。				
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点		準 備	関 連 内 容	
1 伝言遊びをする。 (1) 1対1で伝言遊びをする。 「○○を持ってきました。」 「○○さんをお願いします。」 など (2) 複数で伝言遊びをする。		・ 複数の身近な物を準備し、選ばせるが、生徒に応じて実物や写真などに対応させながら選ぶようにさせる。 ・ 持ってきた物などを全員で確認し、正しくできたかどうかを確かめる。 ・ 終わりまで注意して聞いたり、分からないときは聞き返したりさせる。 ・ 伝言の内容は生徒に応じて簡単なものや複雑なものなど工夫する。		・ コップ、本、帽子など身近な物	国 1-10, 12 国 2-7, 8 国 3-2	
2 電話の練習をする。 (1) 自分を名乗る。 「もしもし（はい）、○○です。」 (2) 用件を聞く。 ・ 取り次ぎ 「ちょっと待ってください。」 ・ 伝言 「はい、分かりました。」		・ 模擬電話を用いて繰り返し練習できるようにする。 ・ 「○○さんに代わってください。」、「○○さんに伝えてください。」など、生徒に応じて用件を工夫し、はっきりと伝える。 ・ 生徒に応じてメモを取りながら聞いて伝言できるようにする。 ・ 番号は手帳等を見ながら正確に押すように意識させる。 ・ カードやお金を実際に使い、それらの扱いに慣れるようにする。 ・ 友達や教師、家族などいろいろな相手を想定し、相手に応じた言葉遣いを意識させる。		・ 模擬電話 ・ メモ用紙 ・ 筆記用具 ・ 番号を書いた手帳等 ・ テレホンカード ・ お金	国 3-5 国 3-8 国 4-8 生・交 4-3 生・公 3-3 国 5-7, 8, 9 社 4-1, 4	
3 電話を使用する。 ・ 校内電話の使用 ・ 公衆電話の使用 (1) 相手を確認自分の名乗る。 (2) 用件を伝える。						

題 材		言 葉 遊 び			
学 部		高			
学年・段階		A ・ B ・ C ・ D ・ E			
月（時数）		6～7月（6時間）			
目 標	○ 言葉集めや歌遊びなどを通して、語いを増やし言葉と事物を結び付けられるようにする。				
	○ いろいろな言葉遊びを通して、言葉に対する興味・関心を持たせ、簡単な言葉の決まりが分かるようにする。				
	○ いろいろな言葉遊びを通して、正しい言葉に対する意識を高め、発想を豊かにする。				
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点		準 備	関 連 内 容
1 仲間集めをする。 (1) 同じものを集める。 (2) 仲間を集める。 ・ 乗り物 ・ 食べ物 (3) 特徴で集める。 ・ 赤いもの ・ 教室にあるもの ・ 「あ」のつく言葉など		・ 動物、食べ物、乗り物など身近なものを取り上げて物の名前に関心を持たせる。 ・ 絵カードや単語カードを生徒の実態に応じて準備し、いろいろな分類ができるようにする。 ・ 神経衰弱ゲームのようにカードをめくって絵や単語（文字）を合わせて集めさせたり、教師の提示したものを集めさせたりするなど方法を工夫する。		・ 絵カード ・ 単語カード ・ 文字カード	国 1-18 2-4 3-1
2 指遊び、絵かき歌遊びをする。 (1) 指遊びをする。 ・ あたま、かた、ひざ、ひげじいさん、八べえさんと十べえさん など (2) 絵かき歌あそびをする。 ・ 棒が一本あったとさへへのもへじ など		・ 教師の言葉を注意して聞かせ、言葉と動作が一致できるようにする。 ・ 初めは動作の大きいものから入り、次第に細かい動作を含んだものも取り入れるようにする。 ・ 簡単な絵から文字を含んだ絵へ段階を追って書くことで、書くことへの抵抗を和らげるようにする。		・ 歌詞カード ・ 筆記用具 ・ 画用紙 ・ 画用紙	国 2-15 1-7 国 2-17, 18 19, 6 14
3 あてっこ遊びをする。 (1) なぞなぞをする。 ○ 見たり触ったりして当てる。 ○ 絵の部分から全体を類推して当てる。		・ 指導者の動作を見て何をしているか当てたり、袋の中の物を触って当てたりする。実物や絵カードを前もって提示し、マッチングさせるなどして分かりやすいようにする。		・ 絵カード	5-3 3-6

題 材		運 動 会		
学 部		中	高	
学年・段階		A・B・C	A・B・C	D・E
月（時数）		9月（8時間）	9月（6時間）	9月（8時間）
目 標	○ 教師と一緒に種目名を調べ、動作で表現したり、発表したりすることができるようにする。 ○ 運動会に関する言葉を調べ、正しく読んだり、書いたりすることができるようにする。 ○ プログラムや案内状を書いたり、思い出をまとめたりしながら、大事なことを落とさずに順序よく書くことができるようにする。			
主な学習活動・内容		留 意 点	準 備	関連内容
1 運動会の種目名を調べる。 (1) 種目名を調べる。 (2) 動作で表現する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ VTRなどでイメージを持たせる。 ・ 道具や絵カード、文字カードと言葉を常に結び付けて発表できるようにする。 ・ 教師の動作を模倣させたり、道具や効果音を用いたりして、伸び伸びと表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTR ・ 写真 ・ 道具 ・ 文字カード ・ 効果音 	国 1-7 2-4 国 2-14 国 3-9, 13
2 プログラムを書く。 (1) 種目名を書く。 (2) 説明文を書く。 (例)「みんなで旗を持って 元気よく踊ります。」		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に応じて用紙や量を工夫する。 ・ 拗音や長音などの書き方を繰り返し練習させて正しく書くようにする。 ・ プログラムは案内状にはるなど、後で使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用紙 ・ 筆記用具 	国 3-14, 15
3 案内状を書く。 (1) 出す相手や内容を考える。 (2) 案内状を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期日、場所、種目、あいさつ文 ・ 相手の名前 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出す人は家族やお世話になった先生など身近な人を選ぶようにさせ、意欲を持てるようにする。 ・ 生徒の実態に応じて用紙や案内文の量を工夫する。 ・ はっきりと丁寧に、順序よくなど相手に分かりやすく書くということを常に意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用紙（練習用、清書用） ・ 筆記用具 	国 4-15, 16, 18 19, 20
4 作文やお礼状を書く。 (1) 内容を考える。 (2) 作文やお礼状を書く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ VTRや写真で具体的に思い出させ、楽しかったことや頑張ったことなどを多く引き出せるようにする。 ・ 生徒の実態に応じて用紙や文の量を工夫する。 ・ 書いた文は一人ずつ読んで発表する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ VTR ・ 写真 ・ 用紙（練習用、清書用） 	5-18, 9 22, 23 生・交 3-11

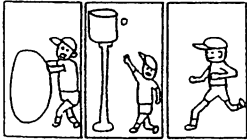
題 材	お話をきこう	童 話	童話・物語	童話・物語・詩	
学 部	小	小	中	高	
学年・段階	A	B・C	A・B・C	A・B・C	D・E
月（時数）	9～10月（14時間）		10～11月 （12時間）	10～11月 （8時間）	10～11月 （6時間）
目 標	<p>○ 絵本を見たり、簡単な話を聞いて、身近な乗り物や動物などの名前を言ったり、好きなものを探したりして、絵本を見る楽しさが分かるようにする。</p> <p>○ 紙しばいを見たり、童話を聞いたりして、場面を動作化したり、粗筋を理解して発表したりすることができるようにする。</p> <p>○ 簡単な物語や詩を聞いたり、読んだりして、感想を話したり、書いたりすることができるようにする。</p>				
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点		準 備	関 連 内 容
1 絵本を見る。 (1) 教師と一緒に見る。 (2) 好きな場面を動作化する。 (3) 見た絵本について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 出てきたもの おもしろかったところ 		<ul style="list-style-type: none"> 絵本は、児童生徒がよく知っているものが多く出てくるものを選び、これは何かなと聞いて関心を高めながら一緒に見るようにする。 話すときは、表情や抑揚を工夫しながら話し、楽しく聞けるようにする。 興味・関心を持てるような絵本を多く準備する。 児童生徒の実態に応じて絵カードを用いたり、動作で表現させたりして全員が発表できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 絵本 絵カード 	国 1-1, 2 3, 16 国 2-1, 11 国 2-5
2 童話や物語を読む。 (1) 紙しばいを見る。 <ul style="list-style-type: none"> 題名を知る。 紙しばいを見る。 内容について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 登場人物 粗筋 感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> おもしろかったところなど 		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のよく知っている話や、関心の持てそうな話を選ぶ。 効果音を用いたり、抑揚をつけたりするなど読み方を工夫し、紙しばいに気持ちを引き付けるようにする。 登場人物や大まかな粗筋の絵カードを掲示して粗筋の理解を高める。 絵カードで発表させたり、動作で表現させたりする。動作で表現させるときは小道具や簡単なせりふを用いて具体的なイメージを持ちながらできるようにする。 実態に応じて文章でも書かせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 紙しばい 効果音 絵カード 小道具 	国 2-2 国 3-1 国 4-1 国 4-10

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
(2) 童話や物語を聞く。 ○ 題名を知る。 ○ 話を聞く。 ○ 内容について話し合う。 ・ 登場人物の発表 ・ 粗筋の発表 ・ おもしろかったところの動作化 ○ 感想を発表する。 ・ おもしろかったところなど	・ 粗筋の分かりやすい話を選び、適宜絵カードや効果音を用いて話をする。また場面ごとに区切り、粗筋を確認させながら話を進めていく。 ・ 登場人物や大まかな粗筋の絵カードを掲示して粗筋の理解を高める。 ・ 絵カードで発表させたり、動作で表現させたりする。動作で表現させるときは小道具や簡単なせりふを用いて具体的なイメージを持ちながらできるようにする。 ・ 実態に応じて文章でも書かせる。その際は、生徒に応じて文章の長さやます目の大きさを工夫する。 ・ 完成したら全員の前で読んで発表する場を設定する。	・ 本 ・ 絵カード ・ 効果音 ・ VTR ・ 小道具 ・ 原稿用紙 ・ 筆記用具	国 4-1 国 4-4
(3) 童話や物語を読む。 ○ 読みたい本を選ぶ。 ○ 本を読む。 ○ 読んだ本について発表する。 ・ 登場人物 ・ 粗筋 ・ 感想 ○ 感想文を書く。	・ 図書室を利用し、自由に探せるようにするが、内容、長さなどが実態に合ったものになるように適宜助言をする。 ・ 粗筋の発表は、全体や部分的になど、生徒の実態に応じて行わせる。 ・ 感想は、おもしろかったところなどに加えて、実態に応じて自分が主人公だったらどうしたかななどについても考えさせ、発表させるようにする。 ・ 生徒に応じて文章の長さやます目の大きさを工夫する。 ・ 完成したら全員の前で読んで発表する場を設定する。	・ 本 ・ 原稿用紙 ・ 筆記用具	国 4-10 国 5-1, 2 11
3 詩を読む。 (1) 話を聞く。 (2) 詩を読む。 (3) 詩を書く。	・ 身近な題材を読んだ詩やリズムのある詩を表情豊かに読んで聞かせることで、詩に対する興味・関心を持たせる。 ・ 言葉の繰り返しなどリズムのおもしろいところは教師が数回読んで聞かせて、印象を強める。 ・ 初めは、授業で扱った詩の一部を替えさせたりして楽しく詩を書くことができるようにする。 ・ 完成したら全員の前で発表させる。	・ 詩 ・ 原稿用紙 ・ 筆記用具	

題 材		お 話 を し よ う	お 話 作 り		
学 部		小			
学年・段階		A		B・C	
月（時数）		10月～11月（12時間）		10月～11月（12時間）	
目 標	○ 相手の話を聞いたり、自分の要求を表情や身振りで伝えたりすることができるようにする。				
	○ 相手の話を終わりまで静かに聞いたり、自分の要求や経験したことなどを、簡単な言葉で話したりすることができるようにする。				
	○ 相手の話を要件を落とさずに聞いたり、自分の要求や経験したこと、見聞きしたことなどを、はっきりと話したりすることができるようにする。				
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点		準 備	関 連 内 容
1 ピクニックごっこをする。 (1) 準備をする。 (2) ピクニックに出掛ける。 ・ 教室で ・ プレイルームで ・ 戸外で (3) 楽しかったことなどを発表する。		・ おやつやジュース、リュックサックなど子供たちの興味・関心の高いものを取り入れながら活動できるようにし、その中で、要求表現を引き出したり、言葉でのやり取りを楽しませたりするようにする。 ・ 子供の表情、身振り、話し言葉などから、子供たちの思っていることや行動を、教師が言葉にして表現する。 ・ 戸外での活動も取り入れ、伸び伸びと活動を楽しめるようにする。		・ リュックサック ・ 水筒 ・ 敷物 ・ おやつ ・ ジュースなど	道 2-(3) 国 1-9～13 国 2-8
2 ままごと遊びをする。 (1) 準備をする。 ○ ござやテーブルなどの用具を準備する。 ○ 役を決める。		・ 食べ物や模型、茶碗などの食器、ござやテーブルなど、子供たちが楽しく活動できるように道具の準備をする。 ・ 遊びの中で使う道具の名称やその使い方などについても触れていく。 ・ 子供たちの意思を尊重しながら、適宜、お父さん、お母さんなどの役も設定して遊びを広げていく。		・ 実物 ・ 模型 ・ 食器のおもちゃ ・ テーブルなど	道 2-(3) 国 1-9～13 国 2-8 生・遊 2-1

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
(2) ままごと遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> 教師も、お客さんや子供などの役になって一緒に活動し、子供たちの気持ちや行動を言葉で表現するなどして、遊びが展開していくようにする。 遊ぶ中で、「こんにちは」や「〇〇をください」など、自然に言葉が引き出せるようにし、やり取りを楽しませるようにする。 		
3 電話ごっこをする。			国 1-9~13
(1) 「あのねごっこ」をする。	<ul style="list-style-type: none"> 身振りや絵などを基に、教師の方から身近な話題について「あのね」という言葉で話し掛ける。 	・絵カード	国 2-6~8 国 3-2, 3 5, 6
(2) 模擬電話を使って、電話ごっこをする。	<ul style="list-style-type: none"> 糸電話や筒を使ってのお話遊びなども取り入れ、楽しく活動できるようにする。 	・糸電話 ・筒	8, 9
・ 教師と一緒に		・模擬電話	生・遊 2-1
・ 友達同士で	<ul style="list-style-type: none"> 返事やあいさつの練習、「もしもし〜」という言葉掛けなどもやり取りの中で取り入れる。 名前を聞いたり、その日の出来事について尋ねたりなど、身近な話題を中心に、話題を広げていくようにする。 校内の電話や公衆電話なども取り入れ、楽しく活動できるようにする。 	・校内電話 ・公衆電話	生・交 3-6 道 2-(1)
4 買い物ごっこをする。			
(1) お店には、どんな品物があるか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 写真やVTRを見せながら、どんなお店があるか、どんな品物があるかなどに気付かせる。 子供たちが興味・関心を持ちやすいような、お菓子屋さんやおもちゃ屋さんなどを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 VTR 絵カード 	道 4-(1) 国 1-10 国 2-6, 12~14 国 3-12, 13

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
(2) お店づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> 品物の名前カード 値段のカード 看板 など 	<ul style="list-style-type: none"> 品物の名前、値段、看板など、子供の実態に応じて、書く活動も設定する。 看板や買い物かごなどでお店の雰囲気を作り、楽しく活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペン パス 看板 かご エプロン 実物 模型 絵カード 買い物袋 	国 2-15～ 16 国 3-14, 15
(3) 係を決める。 <ul style="list-style-type: none"> お客さん（買う人） 店の人（売る人） 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も店の人の役やお客さんの役に加わり、やり取りのモデルを示したり、やり取りを広げたりする。 		国 1-10～ 13
(4) 買い物をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつをする。 ○ 欲しい物を伝える。 ○ 品物をやり取りする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教科・領域との関連を図りながら取り扱うようにする。 		国 2-8, 10 国 3-8, 9
(5) お使いをする。 <ul style="list-style-type: none"> 実物と実物 実物と模型 模型と模型 模型と絵カード 絵カードと絵カード など 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の実態に応じて、実物や模型、絵カード、文字カードなどを使ってお使いをさせる。 最初は指示を一つ出し、お使いを十分行なわせるようにする。また、慣れてきたら、場所や人を指示したりお使いする品物を増やしたりして、聞き取る内容を多くしていく。 		生・遊 2-1 国 1-10, 11 国 2-4, 6, 7, 10 国 3-5, 8, 9 生・遊 2-1
5 お話づくりをする。 (1) 絵を見ていろいろな話をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵を見て話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容は、子供たちが興味を持っていたり、よく知っていたりする動物や食べ物が出てくるようなものを取り上げる。 初めは一枚の絵を見て話をする活動を設定し、次第に二枚、三枚とつながりのある絵を見て話をする活動を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵 	国 1-3, 14 16 国 2-2, 3, 6, 10 国 3-3, 9
<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の内容を動作化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 出てくる動物の動作や鳴き声などを模倣したり、関連する音楽に合わせて踊ったりなどさせて、内容の理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> テープレコーダ 	

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>○ 絵の内容を絵カードやぬいぐるみなどを動かして、表現する。</p> <p>(2) お話づくりをする。</p> <p>○ 簡単な話を聞く。</p> <p>例 「太郎はかけっこで一番になりました。」</p> <p>○ 絵に合った絵カードを選ぶ。</p> <p>例 「かけっこ」</p>  <p>○ 絵カード3枚を並べて話をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵だけでなく、紙芝居や絵カードにしたり、ペープサートや影絵にしたりするなど、子供たちが興味・関心を持ちやすいように工夫する。また、子供たち自身に絵カードなどを操作させ、その中で内容の理解を深めさせる。 話の内容は、家庭での様子や友達に関係することなど子供たちの生活に結び付いたものにする。 話を聞いただけでは分からないときには、絵カードや写真を見せたり、動作で表したりさせる。 初めは、分かりやすい絵カードを数枚準備し、次第に、似たような絵カードにして、確認させる。 文は、3枚のカードで説明できるようにあらかじめ作っておく。 文の一部を少しずつ変えていき、お話作りに慣れさせる。 絵カードを3枚並べるのが難しい場合は、文でヒントを与えたり、動作化させたりして考えさせる。 徐々に「はじめに」「それから」「すると」など、つなぎの言葉や順序を表す言葉なども話題の中に取り入れていくようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カード 紙芝居 ペープサート 影絵 絵カード 写真 文字カード 絵カード 文字カード 絵カード 文字カード 	<p>国 2-2, 3, 6, 10</p> <p>国 3-3, 9</p>

題 材		まねて書こう		年 賀 状		いろいろな書式					
学 部		小		中		高					
学年・段階		A		B・C		A・B・C		A・B・C・D・E			
月 (時数)		12月 (4時間)				12月 (6時間)		12月 (8時間)			
目 標	○ なぐり書きなどをして、書くことを楽しむことができるようにする。										
	○ 丁寧な文字で、年賀状やはがき、手紙などを書くことができるようにする。										
	○ いろいろな書式について知り、簡単な履歴書や証明書などの意味が分かり、書くことができるようにする。										
主な学習活動・内容				留 意 点				準 備		関連内容	
1 自由になぐり書きをする。				・ 腕を大きく動かすようにさせて、自由になぐり書きをさせる。				・ 用紙		国 1-19	
2 線書きをする。				・ 歌を歌ったり、擬態語などを使って話したりしながら書くなど、楽しみながら学習できるようにする。				・ ペン		国 2-15	
・ 線たどり ・ 線つなぎ										～18	
3 形書きをする。				・ 個に応じて形板を使ったり、絵探しをしたりなど、段階的に活動を準備するようにする。				・ 形板			
・ 形板書き				・ 顔や乗り物、食べ物など子供たちの興味・関心のあるものを簡略化して活動に取り入れるようにする。				・ ペン			
・ 絵探し				・ カード選びや文字カード選びは印や見本を手がかりにさせたり、選択するカードの数を少なくしたりして、徐々に慣れさせるようにする。							
・ 形の完成											
・ 点結び											
・ 書き写し											
4 名前を書く。										国 2-11,	
(1) 名前のカードを選ぶ。								・ 文字カード		14, 15	
(2) 文字カードを名前で作る。				・ 名前を書けるようになったら、用紙のマス目や行間を小さく細くしてして、その枠内に書けるように練習させる。				・ 名前カード		18, 19	
ま さ こ				・ 個に応じて、少しずつ漢字を取り入れていくようにする。				・ 用紙		国 3-17	
(3) 名前を書く。				・ これまでにもらった年賀状を見せたり、新年のあいさつをさせたりして、年賀状を書くことへの興味・関心を高める。							
・ なぞり書き											
・ 模写											
・ 暗写											
5 年賀状を書く。								・ 年賀状		国 2-19	
(1) 出す相手を決める。								・ 名簿		国 3-14,	
(2) 受取人や差し出し人の住所や氏名を書く。								・ 郵便番号簿		15, 17	
(3) 郵便番号を調べて書く。										18	
										国 4-16	

主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
(4) 年賀状の形式を調べる。 ・ 年賀のあいさつ 「おめでとうございます」 ・ 年号 ・ えと ・ あいさつ文 など (5) 年賀状を書く。	・ 住所やあて名など難しい部分は代筆し、できるところから書かせていく。文字の大きさや字の配置等についても、マスをつくるなどして配慮するようにする。	・ サインペンや筆	生・交 2-10 3-11 生・公 3-5 道 2-(4)
6 はがきや手紙を書く。 (1) 出す相手を決める。 (2) 受取人や差し出し人の住所や氏名を書く。 (3) 郵便番号を調べて書く。 (4) 書く内容を決める。 (5) 手紙文の形式を調べる。 ・ 時候のあいさつ ・ 主文 ・ 後付け など (6) 文章を書く。	・ 個に応じて用箋を変えて書かせる。 ・ 今までにもらった絵はがきや手紙などを持ち寄らせ、絵や似たような文字、形などを基に分類させ、いろいろな通信文に気付かせる。 ・ 郵便番号簿の利用の仕方についても触れる。 ・ 日付や名前を書く位置など、便せんの使い方にも触れる。 ・ 誤字や脱字があると配達に支障があることを知らせ、いつも正確に書くように言葉掛けをする。	・ 絵はがき ・ はがき ・ 手紙 ・ 便せん ・ 封筒 ・ 郵便番号簿 ・ 切手	国 3-8 国 4-16 国 5-18 生・交 3-11
7 いろいろな書式の書類を書く。 (1) いろいろな書式を調べる。 ・ 履歴書、身上書 ・ 預入票、払戻票 ・ 領収書、伝票 ・ 請求書、納品書 ・ 宅配便の申し込み書 ・ 諸届出 (婚姻届け、離婚届け、 出生届け、死亡届け) など (2) いろいろな書類を書く。 ・ 住所、氏名、生年月日 ・ 家族構成 ・ 趣味 ・ 特技 ・ 日付 ・ 金額 など	・ 日常生活でよく利用されている書式や実習先で使われる書式を中心に扱うようにする。 ・ それぞれの書式の用途、使う場所等から、必要な項に気付かせる。 ・ ゴやヤの意味、太枠で囲まれているところなど、記入に必要なことを知らせる。 ・ 実際に届け出をするときには印鑑の必要な場合も多いことを知らせる。 ・ 記入する項やその場所等を確認してから書かせるようにする。 ・ 履歴書や証明書等について、あらかじめ一人一人の見本を準備し、正しく模写させるようにする。 ・ 諸証明書等についてはその申請先や提出期限等にも触れておく。	・ 履歴書 ・ 預入票 ・ 払戻票 ・ 領収書 ・ 請求書 ・ 納品書 ・ 宅配便の申し込み書 ・ 諸届け用紙 など ・ ペン	国 4-12, 19 国 5-14, 18 道 4-(1), (2)

題 材		か る た			
学 部	小	小	中	高	
学年・段階	A	B・C	A・B・C		A・B・C・D・E
月（時数）		1月（6時間）			
目 標	○ 身近にある物の色や形の異同が分かり、具体物や絵と名前を結び付けることができるようにする。				
	○ かるた取りをして、平仮名で書かれた語句を読むことができるようにする。				
	○ かるたつくりやかるた取りをして、簡単な語句や短い文を読んだり書いたりすることができるようにする。				
主な学習活動・内容		留 意 点		準 備	関連内容
1 いろいろな色や形、動物や乗り物などの絵カードを選ぶ。 (1) 同色、同形のカードを集める。 (2) 教師の言ったカードを取る。		・ 色や形の名前を言ったり、触って形を調べたりして、同色、同形のカードを集めさせるようにする。 ・ 子供たちがよく知っている動物や乗り物などの絵カードを使って、カード遊びへの興味・関心を持たせる。		・ 同色のカード ・ 同形のカード ・ 動物や乗り物などのカード	国 1-14, 18
2 かるた取りをする。 (1) 平仮名の一文字カードでかるた取りをする。 例 <div><div>め</div><div>車</div><div>て</div><div>手</div></div> (2) 平仮名の二文字くらいのカードでかるた取りをする。 例 <div><div>くち</div><div>く</div><div>はな</div><div>花</div></div>		・ 子供の実態に応じて、平仮名一文字や二文字くらいのカードから、長文の読み札へと段階的に扱う。 ・ 子供の実態に応じて、絵札の枚数を少なくしたり、知っている文字のカード（自分の名前など）だけ並べたりするようにする。 ・ 絵札に書いてある文字を確認させながら進めるようにする。 ・ 促音や長音などに気を付けさせながら正しく読めるように練習させる。		・ 一文字や二文字のかるた	国 2-4, 12, 14 国 3-9, 12 道 2-(3) 4-(1)
(3) 読み札を読んで、絵札を取る。 (4) 絵札を並べ、読み札を合わせる。		・ 読み札の文は、身近にある事などから考えさせるようにする。また、絵札を準備しておき、それに合う言葉を考えさせてもよい。			国 1-19 国 2-12, 14, 17
3 かるたつくりをする。 (1) 簡単な語句や短い文を考えて、かるたをつくる。 例 ㊦ んなでたこあげ うれしいな (2) かるた取りをする。		・ 子供の実態に応じて、なぞり書き、視写、暗写をさせる。 ・ 子供たちがつくったかるたで遊ばせ文字や文章への関心を一層高める。		・ 見本のかかるた ・ 白表紙 ・ パス ・ 油性ペン	国 3-12～15 国 4-18, 19

題 材	劇遊びをしよう		劇	
学 部	小		中	高
学年・段階	A	B・C	A・B・C	A・B・C・D・E
月（時数）	2月（8時間）			
目 標	<p>○ 友達と一緒に、レコードやテープに合わせて劇遊びができるようにする。</p> <p>○ 登場人物や話のあらましなどが分かり、動作化することができるようにする。</p> <p>○ 感情を込めて、簡単なせりふを言ったり、演じたりすることができるようにする。</p>			
主な学習活動・内容		留 意 点	準 備	関連内容
<p>1 劇遊びをする。</p> <p>(1) 劇遊びの内容を聞く。</p> <p>(2) しぐさや言葉のまねをする。</p> <p>(3) みんなの前で表現する。</p> <p>2 簡単なせりふのある劇をする。</p> <p>(1) 脚本を読む。</p> <p>(2) 粗筋を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物 話のあらまし 感想 <p>など</p> <p>(3) 配役をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役の特徴 <p>(4) 劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み合せ 演技化 登場人物の気持ち <p>など</p> <p>3 学習のまとめをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや、読書感想発表会等で子供たちが興味・関心を示した作品を取り上げ、すぐに劇を親しめるようにする。 絵や紙芝居で見せたり、ペープサートや指人形で芝居をしてみせたりして、劇の内容を分かりやすくする。 簡単に動作化させたり、言葉で表現させたりする。 登場人物や話の展開を予想させ、読むことへの意欲を高める。 さし絵や状況画などを見せて、登場人物やあらすじ、感想を発表させる。 配役の絵や文字カード、せりふカード等を用意し、自分のせりふや劇の流れに慣れさせる。 せりふの長さや言葉、身体表現は、子供の実態により考慮する。 登場人物の気持ちを話し合いながら、そのときの動作や表情を工夫させる。 小道具や衣装を準備して、楽しみながら発表できるようにする。 劇を見るときの態度にも注意させる。 VTRや写真で劇を振り返らせ、一人一人賞賛し、みんなの前で発表できたという成就感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本 紙芝居 ペープサート 指人形 テープレコーダー CD 脚本 状況画 配役の絵 文字カード せりふカード 小道具 衣装 VTR 写真 	<p>生・遊 1-3 2-2</p> <p>国 1-2 2-2</p> <p>音 2-8 3-6, 7</p> <p>国 1-16 2-3, 9, 11</p> <p>3-7, 10 4-1 5-1</p> <p>音 2-9 3-7, 8</p> <p>道 1-(4), (5)</p> <p>国 2-2 4-1</p>

題 材		何でも書こう			文 集	
学 部		小		中	高	
学年・段階		A	B・C	A・B・C	A・B・C	
月（時数）		3月（4時間）				
目 標	○ なぐり書き，形書き，線書きなどをして，書くことに興味を持てるようにする。					
	○ なぞり書き，視写，暗写をして，簡単な語句や短い文を書くことができるようにする。					
	○ 一年間経験したことや心に残っていることを，順序立てて書くことができるようにする。					
主な学習活動・内容		留 意 点		準 備	関連内容	
1 何でも書きたいものを書く。 (1) なぐり書きをする。 (2) 形書きや線書きをする。 ・ 型絵 ・ ぬり絵 ・ なぞり書き		・ 鉛筆，いろいろな色のフェルトペン，クレヨンなどを準備し，好きなものが自由に書けるようにする。 ・ 一年間の出来事が分かるような型板や児童生徒が興味を持っている事物の絵やマーク等のぬり絵を準備する。 ・ 児童生徒の腕，手，指の動き，目と手の協応の実態に応じて，字の大きさや文字の組み合わせを考慮する。		・ フェルトペン ・ 鉛筆 ・ クレヨン ・ 画用紙 ・ 半紙 ・ 型板 ・ ぬり絵 ・ 絵カード	国 1-2, 3 2-1, 2 道 1-(3)	
2 簡単な語句を書く。 (1) なぞり書きをする。 (2) 視写をする。 (3) 暗写をする。		・ 「横に長く」「丸書いて」等リズムをつけるようにする。 ・ 思い出に残る行事，学習「入学式」「遠足」「運動会」「学習発表会」等のVTRや写真を見せ，一年間の行事や学習を思い出させる。		・ 文字カード ・ 写真	国 2-15～ 20 国 3-14	
3 一年間の思い出を書く。 (1) 経験したことを発表する。 (2) 経験したことを文章で書く。 ○ 簡単な文で書く。 ○ 順序立てて書く。 ○ 詳しく書く。 ○ 自分の気持ちや心に残ったことを書く。 (3) 文集を作る。 (4) 発表する。		・ 経験したことや事実を「〇〇〇が楽しかったです。」等簡単な文で書いたり，順序立てて書いたりすることから始め，徐々に自分の気持ちや，心に残ったことも書けるようにする。 ・ 句点や読点の使い方，長音，拗音，促音，はつ音，助詞の書き方や使い方等にも注意させる。 ・ よく使われる簡単な漢字を使って書く。 ・ 文集は，児童生徒の発達段階に応じてぬり絵やなぞり書きにしたり，文章にしたりする。		・ VTR ・ 写真 ・ 作文用紙 ・ 原稿用紙 ・ 鉛筆 ・ クレヨン ・ 画用紙	国 2-6 3-3, 15～18 国 4-4 4-15～ 20 5-4 5-18～ 20 5-22, 23	